

# 令和元年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて
<p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践、家庭学習の充実を通して、生徒個々に応じた進路実現をめざす。</p>	<p>① 生徒による授業評価や教職員相互の授業参観をもとにして、学力向上につなげる授業を充実させる。</p>	<p>生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は41.4%（前期32.8%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は45.1%（前期50.1%）、合計86.5%（前期82.9%）であった。</li> <li>・今後も本時の学習目標の提示や授業の振り返り等を毎時間徹底するように取り組んでいく。</li> </ul>
	<p>② 適切な学習課題を課すことや、生徒との面談を通して、家庭学習の習慣化を図り、授業の予習・復習にしっかりと取り組ませる。</p>	<p>生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は38.7%（前期33.5%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は36.3%（前期39.3%）、合計75.0%（前期72.8%）であった。</li> <li>・予習→授業→復習の学習サイクルが定着するように取り組みを進めていく。</li> </ul>
	<p>③ ICT機器等の視聴覚教材の使用や、生徒と教員間・生徒間の対話の重視に加え、それに基づいて思考を深める時間を授業中に確保する。</p>	<p>教員アンケートの「生徒が授業中に主体的に考えるようにし、思考を深める時間を確保している」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は43.1%（前期34.6%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は54.9%（前期55.8%）で合計98%（前期90.4%）であった。</li> <li>・教科内での研修や互見授業等を通して取り組んだ結果、肯定的評価は上がった。来年度に向けて取り組みを継続する。</li> </ul>
	<p>④ 国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。</p>	<p>国公立大学の現役合格者数 うち難関大・金大 A：100人以上 A：20人以上 B：90人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満</p>	<p>B / D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の現役合格者数は92名、金沢大学は9名であった。</li> <li>・現役生で難関10大学への合格者はいなかったが、横浜国立大学、名古屋工業大学、奈良女子大学への合格者はそれぞれ1名出た。</li> <li>・前期日程不合格者の大部分の生徒が中期・後期日程まで粘り強く学習を続けて受験し、19名が合格を獲得した。</li> <li>・来年度はTプロジェクト（難関大合格への取組）の見直しを行い、難関大学と金沢大学の受験指導を強化する。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>ICT機器を活用しながら、双方向の授業を推進しているが、そのような授業スタイルが受験にも効果があるのではないかな。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>入試問題は近年大きく変化してきており、多くの教科で、生徒の話し合いの場面や、教師と生徒のやりとりなどを取り上げた文章題も増加してきている。ある課題に対し、まず、各生徒が自分で解答し、その後、グループでディスカッションすることによって、考えを深めさせたい。また、生徒が他の生徒に教える場面を設定することで、わかりやすく論理的に述べる力をつけていきたい。</p>			

# 令和元年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて
<p>(2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、失敗からも学ぶことのできる、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。</p>	<p>① 文武両道を基本に、各部が年度当初に立てた目標を達成するよう努力する。</p>	<p>教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた部顧問の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は10.2%（前期22.0%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は65.3%（前期58.0%）で合計75.5%（前期80.0%）であった。</li> <li>・「当てはまる」と回答した割合は前期に比べて減少した。顧問は部活動について冬季の計画を立て、それに従って実施しているので今後も継続していきたい。</li> </ul>
	<p>② 重点目標にあるように「失敗からも学ぶことができるよう」自主性を重んじる。部活動や学校行事における計画段階で、生徒の意見も取り入れる。</p>	<p>生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は51.4%（前期50.8%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は38.1%（前期36.7%）で合計89.5%（前期87.5%）であった。</li> <li>・前期と比べて、わずかではあるが、肯定的回答は増加した。来年度は生徒がより主体的になって計画や運営を行うような方策を考えていきたい。</li> </ul>
	<p>③ けじめをつけるためにも授業の最初と最後に挨拶を行うことを徹底する。また、教員からも積極的に声かけすることで、生徒が自発的に挨拶するよう指導する。</p>	<p>生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は52.3%（前期45.1%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は35.8%（前期41.9%）で合計88.1%（前期87.0%）であった。</li> <li>・今年度は「自発的に挨拶」をする生徒を育てたいという思いを目標にした。「あいさつは先に、さわやか、スマイルで」のプラカードを掲げて、朝の挨拶運動を行った。来年度も継続していきたい。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②に関して 部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる生徒、特に「当てはまる」を選んでいる生徒が多いことは評価できる。</li> <li>・③に関して 学校関係者評価委員会に出席するために来校したが、廊下で出会った生徒は皆挨拶をしてくれた。素晴らしいことであると感じた。</li> </ul>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②に関して 本校に入学してくる生徒は、中学校で全員がリーダーシップを発揮していたとは限らない。学校生活、特に学校行事においては自主性を育むために、様々な活動にチャレンジさせていきたい。</li> <li>・③に関して 目標を前年度と少し変えて、「自発的」を重点に置くことにした。朝や廊下等での挨拶だけでなく、授業の開始・終了時にも教員と生徒が声を出してお互いに挨拶する取り組みを徹底していく。</li> </ul>			

# 令和元年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.3)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて
<p>(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。</p>	<p>① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。</p>	<p>教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は54.9%（前期59.6%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は45.1%（前期40.4%）で合計100%（前期100%）であった。</li> <li>・通常行っている生徒の健康観察に、後期から顔の表情等の観察項目を加えた。「当てはまる」と回答する教員の割合を高めていかなければならない。</li> </ul>
	<p>② 地域でのボランティア活動を各学期に1回以上計画し、学校教育に対する地域の理解を得る。</p>	<p>ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の生徒アンケートで、「複数回参加した」と回答した生徒は35.3%（前期24.2%）、「一回参加した」と回答した生徒は29.4%（前期17.4%）で合計64.7%（前期41.6%）であった。</li> <li>・今年度から冬季、近隣地区の除雪活動をいくつかの部活動で行い、次年度も継続していく。</li> </ul>
	<p>③ ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。また、メール配信では必要な情報を遅延なく提供する。</p>	<p>学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の保護者アンケートで、「当てはまる」と回答した保護者は24.8%（前期23.8%）、「ほぼ当てはまる」と回答した保護者は61.6%（前期62.8%）で合計86.4%（前期86.6%）であった。</li> <li>・本年度ホームページのレイアウト等を刷新し、更新も毎日行ってきた。部活動に関する発信もさらに頻繁に行っていきたい。</li> </ul>
	<p>④ 教員が月1回の定時退校日や部活動における平日1日と土曜日又は日曜日1日以上以上の休養日を遵守する。</p>	<p>教員アンケートの「教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教職員の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は25.5%（前期19.2%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は60.8%（前期55.8%）で合計86.3%（前期75.0%）であった。</li> <li>・前期に比べて肯定的回答は増加した。「働き方改革」への意識は高まっており、業務の効率化に加えて平準化にも取り組んでいく。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・③に関して 学校のホームページは毎日更新されていて、学校から情報発信は十分にされていると感じる。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・③に関して 学校行事についてはもちろん、日常生活においても生徒が頑張っている姿をお知らせしたいと考えている。学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合を90%以上にするために、部活動に関する発信の頻度を高めたい。</p>			